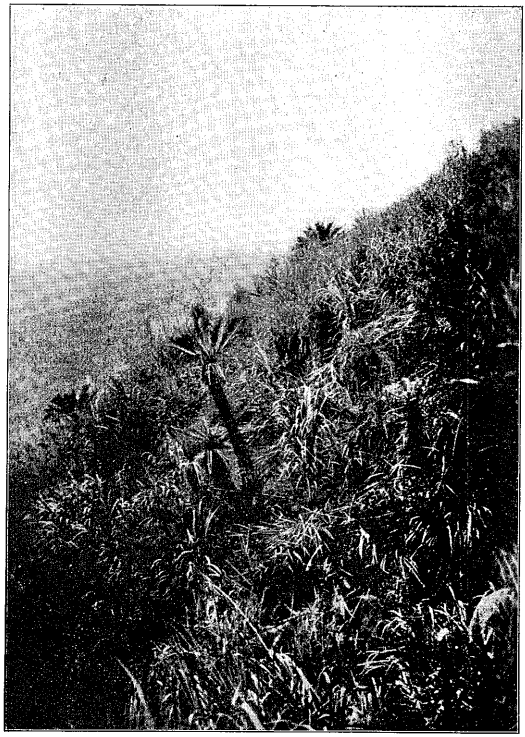
○臺灣植物（四）臺灣蘇鐵

（昭和四年十月記）

理學士　山本由松

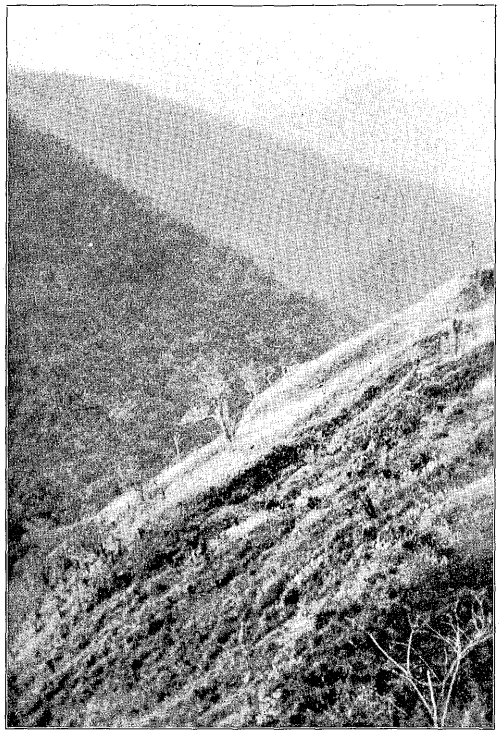
臺灣蘇鐵（**Cycas taiwaniana** Carruthers）ニ就テハ曩ニ本誌ノ第五卷第九號（第三百三十頁）デ「蘇鐵ト臺灣蘇鐵」ト題シテ既ニ詳細ナル報告ヲシタ積リデアッタガ其後尚調査シタ事項ガ少シアルノデ實ハ前ノ報告ヲ補フ意味デコノ貴イ誌上ヲ拜借シテ再ビ「臺灣蘇鐵」ニ就イテ述ベルコトニシタ



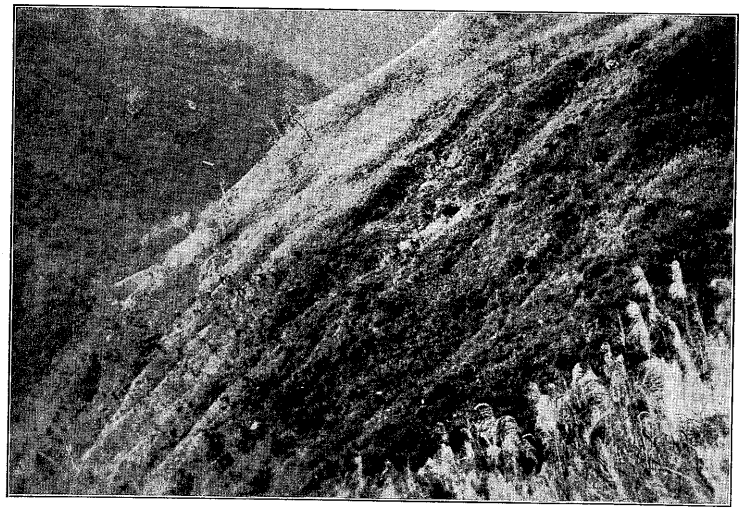
第一圖　バランライガス蕃社附近ノ臺灣蘇鐵
(Cycas taiwaniana Carruth.)
（昭和三年十二月二十七日和影）

サテ前報告ニモアル通リ大正十四年ノ臺東廳下ノトホール蕃社附近ノ調査ヲシタ時ニ料ラズモ臺東廳ノ竹內警部カラ同廳下ノ高地卽チ初絲關溪（バシカウケイ）ノ上流地方ニハ更ニ廣イ範圍ニコノ蘇鐵ト思ハレルモノガ分布シヲルコトヲ承ッタノデアル、處ガソノ際ハ不幸ニシテ時日ガ無クテ遺憾ナガラ踏査スルコトガ出來ナカッタノデアル、然ルニ越エテ昭和三年卽チ昨年ノ冬十二月同方面出張ノ砌最早ヤ年ノ暮モ迫ッタ二十七日カ

ラ約三日間ヲ費シテ此方面ノ實地踏査ヲシタワケデアル、該報告ハ卽チ其時ノ調査ニ基クモノデアル、先ヅ臺東街ヲ汽車デ北行シテ鹿野ト云フ一小驛デ下車シ道ヲ西方ニ取リ中央山脈ニ向ッテ行ケバ約半里ニシテ所謂初絲（シカウ）關溪ノ左岸ニ辿リ着クコトガ出來ル、因ニコノ溪ハ更ニ東流シテ鹿野ノ次驛ナル稻葉ノ東方デ卑南大溪ニ合シ共ニ臺東街附近デ海ニ注イデヲル、又彼ノトホール蕃社ハ卽チコノ合流點カラ少シ下ッタ處デ本流ノ右岸ニ當ッテヲルノデアル、サテコノ鹿野驛カラハ約二里餘ニシテ初絲關溪溫泉ガアリ、此カラ次ノ清水ノ駐在所マデハ約二里半ノ行程デ極ク緩カナ坂路ニナッテヲル、丁度コノ中間ニ當ッテパランライガス（蓋シ萱ノ生ユル處ノ意）トイフ小サイ蕃社ガアルガコノ蕃社ノ斷崖ニナッテヲル附近ニ始メテ臺灣蘇鐵ガ萱原（主トシテおにすゝき）ノ中ニ處々散在シテヲルノガ見ラレタ、（寫眞第一圖）、然シ何レモ高サ一間內外ノモノデ大ナルモ丈餘ニ達スルモノハ遂ニ見當ラナカッタノデアル、次デ清水駐在所カラ行程十數町ニシテ再ビ蘇鐵ノ自生セルヲ發見シ、更ニ行クコト二十町許リニシテ更ニ斷崖ノ上ニ小徑ヲ挾ンデ蘇鐵ノ處々ニ散在シテヲルノヲ見ルコトガ出來タ（寫眞第二、三、四圖）、丁度清水松山兩駐在所ノ中



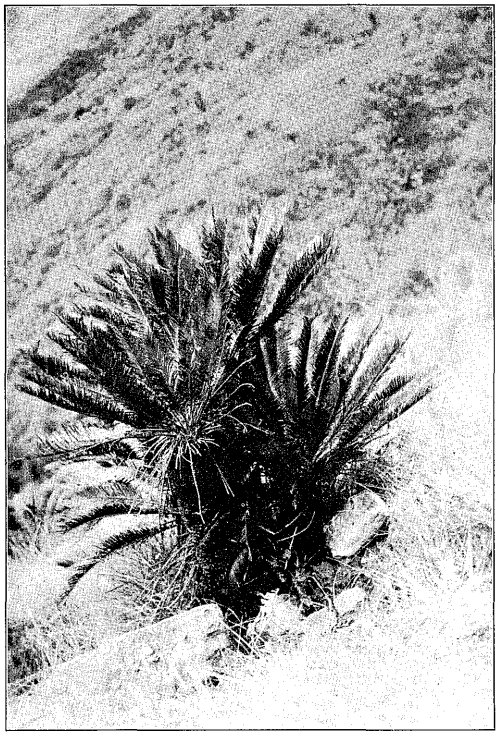
第二圖　臺灣蘇鐵ケ於ニ間山松一水清
(Cycas taiwaniana Carruth.)
（昭和三年十二月二十八日撮影）



第三圖　同　前

第四圖　同　前

間ニ當リ海拔實ニ二千四百數十尺ノ高處デアル、コノ附近ノモノモ前者ト大同小異デ何レモ小形デアリ從ッテ年齡モ若ク彼ノトホール蕃社附近ノモノトハ到底比較ニナラヌモノデアッタ（寫眞第五圖）、尙ホ警官ノ



第五圖　同　前

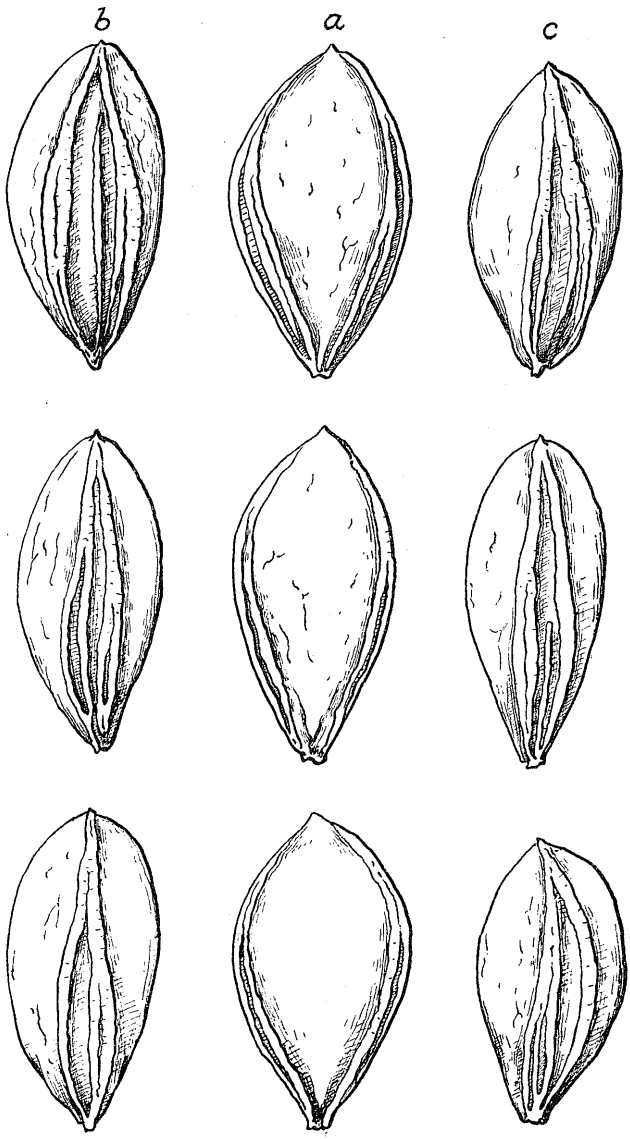
話ニヨルトコノ上流ノ松山附近並ニ內本鹿一帶ノ高地ノ各支流ニ沿フテ散在的デアルガ處々ニ生エテヲルト云フコトデアル、然シ前者ヲ見テ少ナカラズ落膽シタ處ヘ更ニコレ以上ノ期待モ持チ得ナカッタノデ到々中止シテコヽカラ引返シタワケデアル、兎ニ角可ナリノ高處（約三千尺）マデ分布シテヲルコトハ明カデアル、コレガ先ヅ今度ノ調査ノ概略デアル

サテ以上ノ調査カラ總合スレバ、第一ニ清水附近並ニコノ流域地方（卽チ初絲關溪流域）ニ亙ッテ分布シテヲルモノハ要スルニ彼ノトホール蕃社附近ノモノト全然同一系統ニ屬スルモノデアラウト云フコト、第二ニコノ流域ノモノハ何レモ樹モ若ク（高地ハ一般ニ生育ガヨクナイト見テモ大ナルモ尙五十年以上ニハ出ナイデアラウ）又餘リ分岐モシテヲラヌ所カラ見レバ後ニナッテ彼ノトホールカラ移植又ハ播種シタモノデナカラウカト推察サレルノデアル、前者ニ對シテハ今日マデ臺灣島內ニ於テハコノ初絲關溪流域ニ限リ、ソレ以外ノ地方ニハ木ダ發見サレテヰナイノヲ見テモ斯ク思考サレルカラデアル、又後者ニ對シテモ彼ノ卑南大溪ノ下流ニヲッタ先住民ハ次第ニ一ハ本流ニ沿フテ移住シテ所謂平地蕃トナリ一ハ支流ヲ溯ッテ所謂高山蕃

第六圖　バシカウ溪上流域ヨリ持來セル臺灣蘇鐵
(Cycas taiwaniana CARRUTH.)
（昭和四年七月五日撮影）

トナッタモノト云ハレテヲルノデアルカラ少クモトホール附近ニ居ッタパイワン族ガ卽チ初絲關溪ヲ溯ッテ移住スル際ニ持込ンダモノデアラウト思ハレルカラデアル、然シ只コヽニ多少ノ疑問ノ存スルコトハ現在コノ地方ニ播居シテ居ル蕃人ハブノン族デアッテ然モコノ蕃人等ハコノ蘇鐵ニ對シテ甚ダ無關心デ彼等ノ生活上ニ何等ノ關係アリトモ思ハレヌコトデアル、然ルニ土俗學方面ノ見ル所ニヨレバ、コノ內本鹿（ライブンロク）地方（卽チ初絲關溪流域）ニハモト、今日コノ南方高地ニ住ンデヲルモノト同ジパイワン族ノ一部ガ住居シテヲッタガ其後ブノン族（北部高地ニ住スルモノト同族）ノタメニ追ハレテ西南部高地ニ逃ゲタ形跡アリト言ハレテヲル、果シテ然ラバ前述ノ疑問ハ多少解ケルワケデアル、更ニコノ逃走セルパイワン族ノ生活史ノ一頁ヲ繙クコトガ出來、ソノ中ニコノ蘇鐵ト何等カノ關係ガ見出サレルナラバコノパイワン族ガ最初移住ノ際ニ移植シタト云フ推察ニ一段ノ確實ナル證據ヲ與ヘルコトニナラウ、更ニ飜ッテコノ臺灣蘇鐵ノ世界ニ於ケル分布ヲ見ルニ今ノ處只近隣支那南部卽チ汕頭ヤ厦門ノ附近ニノミ產セラレテヲルガ他方、最初卑南大溪

ノ下流ニ移住シタト言ハレテ居ル先住民トテ南方支那ノ史的關係ニ對シテ今日未ダ何等ノ消息モ齎サレテヰナイノデアル、最モコノ共通ニ臺灣蘇鐵ヲ産スルノミヲ以テ直ニ兩者ヲ論ズルコトハ出來ナイニシテモ他山ノ石



第七圖　臺灣蘇鐵 (Cycas taiwaniana Carruth.)
ノ三個ノ種子ニ於ケル中種皮表面ノ皺ノ模様ヲ
示ス（肉質ノ外種皮ヲ除キ、a ハ正面、
b. c ハ兩側面ヨリ見タルモノ）

トシテ史學方面デモ一考スルニ價スルデアラウ、以上ノ問題ハ姑ク將來ノ調査研究ニ待ツコトトシ、コヽデハカノトホール蕃社ヲ以テ臺灣蘇鐵ノ原生地ト認メ且ツ初絲關溪流域ノモノハコレヨリ移植サレタモノデアラウト云フコトヲ最後ニ附言シテ置キタイ

今度ノ調査ノ際ニハ前述ノ通リ樹幹モ一體ニ小サイシ且ツ丁度種子ノ成熟セル後デアッタノデ容易ニ一升餘ノ種子並ニ樹株十數個許リモ採集スルコトガ出來タ、樹株ハ之レヲ鉢植ニシタ所早キハ翌年ノ五月頃、遲キモ七月ニハ殆ンド全部ガ芽ヲ出シ葉ヲ展ベタノデアル（寫眞第六圖）、尙ホ種子ノ形狀ニ就テハコノ際多クノ材料ヲ得タノヲ幸ニ肉質ノ外種皮ヲ除キ固イ中種皮（種皮ノ特徵ヲアラハス部分）ノ表面ヲ充分ニ觀察スルコトガ出來タノデコレヲ最後ノ第七圖ニ掲ゲテ置ク、何等カノ參考ニナレバ幸甚デアル、コノ中種皮ノ皺ノ模樣ニ就テハ私ノ著續臺灣植物圖譜第四輯並ニ植物學雜誌（東京）第四十二卷ニ圖ヲ掲ゲテ置イタガ此レト彼レト比較スルニ斯ノ如ク同一ノ種類ノ中ニモソコニ多少ノ變異ノアルコトハ認メラレルデアラウガ然シカノ內地產ノ蘇鐵（Cycas revoluta Thunberg）ニ比較スルトキハ全ク其ノ性質ヲ異ニシテヲルコトヲ自カラ發見セラレルデアラウ（完）

○こんなものガアリマス！

久內淸孝

こんなものトハどんなものカト言フニ他デハナイふぢかんざう（Desmodium Oldhami Oliv.）ノ葉ノ化物デアリマス其材料ハ昭和四年夏八月東京府下ノ王化未潤域デアル武州刈寄（カリヨセ）山（五日市附近）ニ探勝ノ砌リ一行中ノ猛者澤田武太郎君ガ叢中ヨリ摘ミ出シテ來タモノデ玆ニ提出ノ寫眞ノ如キ代物デアルガ現代ノ寫眞機ハ其眞相ヲ彷彿セシムルニハ餘リニ不完全デアルカラ以下イサヽカ蛇足ヲ加ヘルコトニスル